

あそびえいしょん ASSOCIATION つちうら

2014年度 都市計画マスタープラン実習 6班
 ◎坂本 曜平 大金 誠 鈴木 雄太
 ○桑原 由貴 大野 銀河
 TA: 高橋 一貴

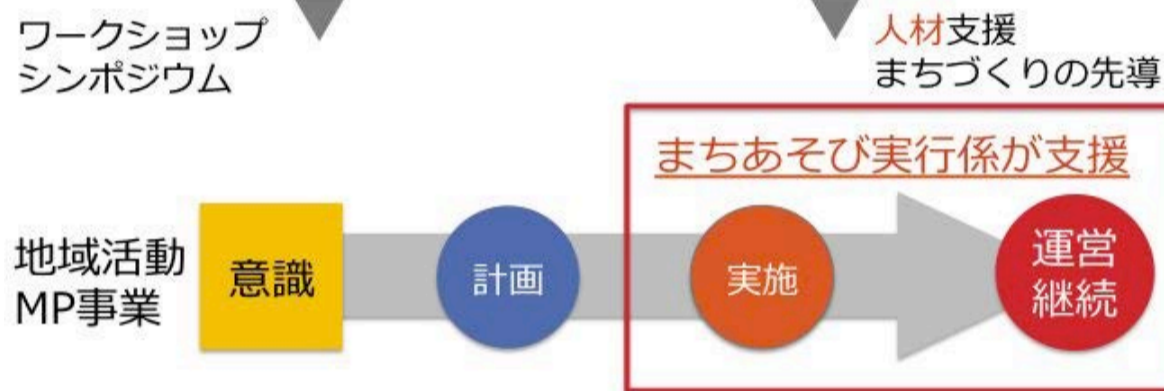
まちづくりにおける『あそび』の定義

- ① 日常の子供のあそびや、買い物、イベントを通して楽しむこと
- ② 生活で感じる豊かさや安心・安全といった心の余裕

あそびで人と人、人とまちが つながる まちの仕掛け
 【あそび × ASSOCIATION】

あそびえいしょん
ASSOCIATION

まちあそび実行系の創設



- 業務内容
- (i) “市民による地域活動”の先導
 - (ii) ガンバレ!夢追い人支援事業の運営
 - (iii) 助け合いファーム事業の運営
 - (iv) まちづくり事業の実施

全体構想

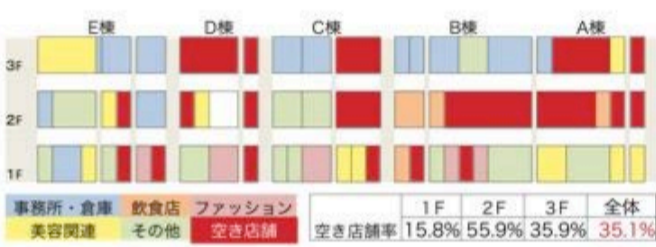
- ASSOCIATION**
- まちあそび** その地域でそこできるとある特定のイベントや買い物など、住民の交流の場を提供するような行事のこと。
- あそび仕事** 経済的な利益に固執せず幸福感や生きがい求めて行う仕事。また、趣味や習慣などの私的かつ地域の役に立つ活動のこと。
- 空間のあそび** 特定の目的を持たない、まちの「ゆるみ」や「すき間」、あるいは誰に対しても開けている空間のこと。
- あそびの文化** 日常があそびで溢れており、人の心が豊かになること。また、これが実現しているライフスタイル。



地区別構想

中心市街地 × まちあそび ▶ 人々の手によって 進化し続ける市街地づくり

- 空き家・空き店舗が多く、活気がない
- 整備・にぎわい対策の満足度が低い
- モール505の空き店舗率は35.1%

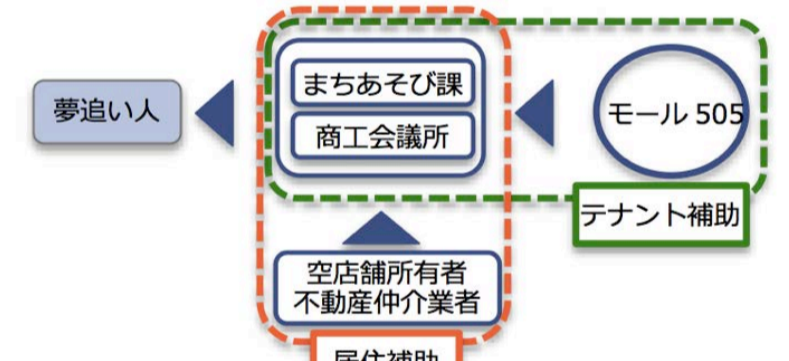


- ・人が集まる仕組み・雰囲気が欲しい
- ・親子ともに訪れる場所に
- ・既存店舗を移動するのは難しい

空き店舗の活用・開業支援対象の拡大を

ガンバレ!夢追い人応援事業

現在の中心市街地活性化事業に加えて、開業希望者とアーティストを対象とした“夢追い人”にまちあそび実行係と商工会議所が連携し居住およびモール505のテナント補助を行う。さらに夢追い人と連携したウォールペイントやナイトイルミネーションなどの『まちあそび』を行うことで子どもから大人までのあそび場としての活用を促し、夢追い人・市民による商店街づくりを可能とする。

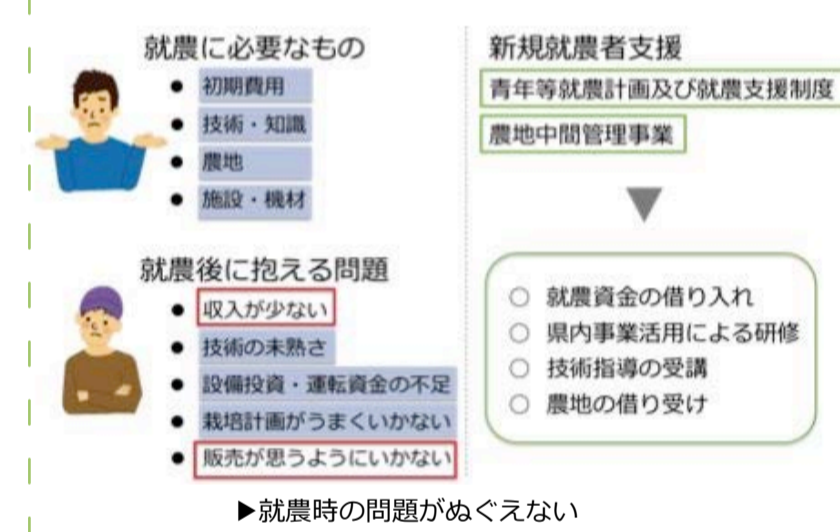


地区別構想

- 中心市街地** 人々の手によって 進化し続ける市街地づくり
- 新治** 地域資源を活用した 活気ある交流づくり
- 荒川沖** 人々が安心して暮らせる ゆとりある居住環境づくり
- 神立おおつ野** 人のつながりを大切にしたい 住み良いふるさとづくり

新治 × あそび仕事 ▶ 地域資源を活用した 活気ある交流づくり

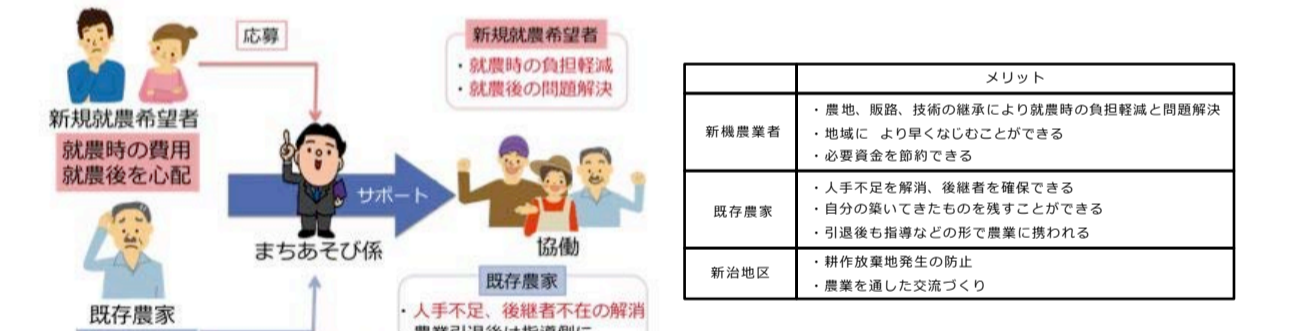
- 耕作放棄地が多く、主な理由が高齢化・人手不足
- 新規就農者が少ない
- 農地中間管理事業は新規就農者促進につながらない



新規就農の促進・人手不足の解消を

助け合いファーム事業

後継者不足の解消・新規就農のハードルを下げることを目的として、既存農家への新規就農者紹介とその後のケアを行う「助け合いファーム事業」を行う。仲介業者を通して、後継者を必要とし農地を提供する既存農家と新規就農希望者を募集し、新規就農希望者と農家によって“協働”という形式で行う農業を紹介する。また、仲介業者は紹介後の経過を観察し両者の関係のケアを行う。“協働”によって新規就農者と既存農家との間に信頼関係が生まれ、新規就農者は農地・技術・販路の継承によるスムーズな自立を期待でき、既存農家にとっては後継者確保と指導者として農業に携わることで引退後の生きがい、つまり“あそび仕事としての農業”を期待できる。



荒川沖 × 空間のあそび ▶ 人々が安心して暮らせる ゆとりある居住環境づくり

- 空き家・空き店舗・空き地が多く人気がない
- 近所付き合いが薄い
- 子供が安心して遊べる場の不足

<地域住民の声>

- 近所のつながりが薄れている (60代 男性)
- 子どもにとって駅前が怖い (小学生)
- 多世代で遊べる場所が欲しい (小学生)

親しみのある安心・安全な交流の場に

「空間のあそび」の導入

荒川沖駅西口では駅前商店街に地域住民の交流の拠点かつ子どもが安心して遊べる場として整備する。空き家を利用したコミュニティカフェや遊技場を、住民の手で企画・運営することで、住民同士の談話の場や地域の集い場として地域住民が気軽に立ち寄れる、立ち寄りたくなる場をつくる。また、歩行者優先道路でフリーマーケットや休日市場など地域イベントを開催することで、地域内外での交流の場、にぎわいのある空間を創出する。そして荒川沖東口の住宅街では多く存在している空き地をポケットパークとして整備する。整備の段階から小中学生や住民に参加してもらい、管理は自治会が当番制で行うことで親しみのあるポケットパークを目指す。これらにより安心・安全な近所のつながりの場として機能するような空間を創出する。



神立おおつ野 × あそびの文化 ▶ 人のつながりを大切にしたい 住み良いふるさとづくり

- 新しいまち
- 子育て世代が多い
- 住民間のコミュニケーション不足

<ヒアリング>

- 昼間は仕事で家を空ける住人が多く、近所付き合いが薄い
- 地域のイベントは年1回BBQに参加しただけ
- 近所付き合いは隣人と花火で遊んだ程度

月1で子ども主体の催しものを

人を知る まちを知る まちに愛着を持つ

完成して間もないおおつ野を住みよいまちにするためには、まず「人を知る」「まちを知る」「まちに愛着を持つ」ことが必要である。その実現の第一段階として、町内会の催し物の頻度を高め、町内会の活性化を促進させる。現在の年に一度の催しものを毎月を増やし、月ごとに各地区(5丁目~8丁目)が催しものの開催、企画・運営を行う。また、住民参加を促す仕掛けとして、企画主体を子どもとすることで家族や友人を巻き込み、回数を重ねることによって住民の交流機会が増える。このように「あそびの文化の導入」によって人のつながりを大切にしたいまち、住民が主体的に地域づくりに取り組むまちを目指し、住み良いふるさとを実現する。

